

9時 訓練開始

太田活性化施設『らくとぴあ』を会場に『大地震が発生し、24時間後に2次避難所を太田活性化施設『らくとぴあ』に設置する』という想定のもと、太田自治会、消防、陸上自衛隊などの関係機関と連携して避難所開設から避難者受け入れまでの訓練を行います。

避難所運営訓練では、太田自治会を中心に『避難所運営本部』を組織し、避難所の設営、避難者や救援物資の受け入れなどを行います。当日は、避難者として訓練に参加することができます。

また、赤十字奉仕団や社会福祉協議会などによる非常食炊き出し、衛星通信移動無線車による特設公衆電話設置などの各種体験、災害対応型自動販売機を設置し飲料水の提供もあります。

さらに、門静副港において釧路海上保安部による孤立避難者救出訓練も行いますので、ぜひお誘い合わせのうえ、参加・見学してください。

■ 訓練内容

時間	訓練項目	訓練内容
9時5分	避難所運営本部会議	避難所運営本部を設置、避難所運営本部構成員の選出
9時30分	給水訓練	水槽を積載した町トラックを活用して、炊き出し訓練への給水を行うほか、バックを活用した給水訓練
9時30分	避難所運営訓練	避難者支援のための各種窓口を設置、避難所運営記録簿の作成、避難者名簿の作成・管理、救援物資受入・配給テントの設置、簡易トイレの設置など
9時30分	救援物資輸送訓練	味覚ターミナル・コンキリエから救援物資を2次避難所（太田活性化施設）まで輸送、救援物資を救援物資受入・配給用テントに搬入など
9時30分	避難者輸送訓練	1次避難所の避難者を、自衛隊車両で2次避難所（太田活性化施設）まで輸送、避難者情報の通信訓練
9時40分	医療従事者移送訓練	1次避難場所での避難者の中にいる傷病者情報を報告し医師等の派遣を要請、自衛隊車両で医療従事者等を2次避難所（太田活性化施設）まで移送
10時15分	孤立避難者救出訓練（門静副港）	門静副港に取り残された孤立避難者を釧路海上保安部ヘリコプターにより救出、孤立避難者を太田活性化施設まで輸送
10時30分	避難者受入訓練	避難者受付の設置、避難者名簿の記入依頼、避難者誘導および避難者名簿の回収、避難者数の報告、避難者名簿管理簿の作成
10時35分	救護訓練	傷病者8人を誘導しながらトリアージを実施、看護師から保健師に傷病者の処置を引き継ぎ、3次救急病院への連絡
10時45分	要配慮者対応訓練	避難者への声かけ、体調不良者の体調聞き取り、臨時診察室まで誘導、健康状態や投薬状況を確認
10時45分	避難所内診訓練	臨時診察室内で医療活動の準備、処置介助や診察記録を町保健師に引き継ぎ、看護師から保健師に情報提供、記録物の保管

時間	訓練項目	実施・協力機関
開始時から終了まで	災害装備品展示	陸上自衛隊
	津波伝播シミュレーション、液状化実験	釧路地方气象台
	消火訓練、応急手当訓練、AED操作訓練	厚岸消防署
	衛星通信移動無線車通信、災害用伝言ダイヤル訓練	N T T 東日本(株)
	衛星携帯電話操作体験	(株) N T T ドコモ
	電源自給型無線LAN	サンエス電気通信(株)、(株)サンエス・マネジメントシステムズ
	災害対応型自動販売機設置、飲料水提供	北海道コカ・コーラボトリング(株)
	災害用品の展示および自動販売機への給電	北海道LPガス協会釧路支部
	非常食炊き出し訓練	陸上自衛隊、赤十字奉仕団、社会福祉協議会、防火クラブ（尾幌婦人部）、釧路太田農業協同組合

12時 訓練終了

非常用持ち出し袋の点検をしませんか

非常用持ち出し袋を用意するのも『自助』のひとつです。持ち出し可能な袋に飲食料やラジオ、懐中電灯などを準備していると非常時に慌てないで避難行動がとれます。この機会に中身の確認をしてください。

非常食は1年から5年、非常飲料は3年から10年の消費期限が各商品によって設定されています。また、ラジオや懐中電灯などに電池を入れたままにしておくと、電池切れや液もれで使えなくなっていることがあります。

もしもの時に必要なものだからこそ、防災訓練のたびに、家庭にある非常用持ち出し袋の中を確認しましょう。

非常用持ち出し品の一例

現金、預金通帳、印鑑、保険証、免許証、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の乾電池、ヘルメット・防災ずきん、厚手の手袋、毛布、缶切り、ライター・マッチ、ナイフ、携帯用トイレ、救急箱、処方箋の控え、胃腸薬・便秘薬・持病の薬、生理用品、乾パン、缶詰、栄養補助食品、アメ・チョコレート、飲料水、下着、靴下、長袖・長ズボン、防寒用ジャケット・雨具、携帯用カイロ

日常備蓄はじめませんか

日常備蓄品の一例

パックごはん、乾麺（そば・うどん・パスタ）、レトルト食品、インスタントラーメン・カップみそ汁、缶詰、ビスケット、チョコレート、飲料水、カセットコンロ、カセットコンロ用ボンベ、簡易トイレ

災害時のために、消費期限の長いアルファ米や飲料水を準備しておく必要はありません。飲食料を多めに買っておくだけで『日常備蓄』という備蓄品になります。普段、食べている乾麺や缶詰、レトルト食品を多めに購入し、常に余剰があるようにするだけで備蓄品として使えるようになります。

乳幼児や高齢者がいる世帯は、状況に合わせて生活に必要な物を多めに備えておきましょう。飲食料の他にも、カセットコンロや簡易トイレなども準備しておきましょう。



あつけし防災標語入選作品

平成23年3月11日に発生した『東日本大震災』の教訓を風化させることなく、町民の皆さんの防災に対する意識の高揚を図り、太平洋沿岸部を震源とする巨大地震発生時における適切な避難行動を促すために、防災標語を募集しました。

その結果、町内の小中学生から317作品の応募があり、最優秀賞1作品、優秀賞3作品、佳作10作品が選ばれました。

■最優秀賞

▽助かった 運命じゃない 心がけ

（真龍中学校1年 佐藤海羽さん）

■優秀賞

▽『逃げましょう』

一言かけて すぐ避難

（太田小学校6年 木村碧さん）

▽来ないだろう

その慢心が 身の危険

（真龍中学校2年 岩田理希さん）

▽てんでんこ

離れていても また会える

（真龍中学校2年 北田麟太郎さん）

※佳作については、誌面の関係上、省略させていただきます。